



5月2日にオープンした鏡山酒造跡地。明治蔵、大正蔵、昭和蔵に囲まれた広場に並んだ四角いタイルの中に、円い模様があります。この模様は、昔、酒造りで稼働していた煙突の跡に作られています。この広場には、かつて三階建ての建物があり、一階では、精米から蒸米までの工程が行われていました。明治8年の

創業当時、辺り一面は桑畑で、遠くからでも煙突を見ることができたそうです。酒造り以外にも、市民の皆さんの目印として活躍していたのでしょうか。

煙突から一メートルほど離れた井戸の跡には、四角いふたが作られています。井戸は六十メートルの深さで、そこからくみ上げていた地下水は、酒造りの命である仕込水としても使われていました。広場南側には、地下水の豊かさを伝えるかのように、せせらぎが造られています。これからの季節、涼を楽しませてくれることでしょう。



当時の煙突と井戸のあった小屋（煙突の右）



どんぐり

編集後記

強い風が吹いた後、代かきの終わった水田に、夕日が映えていました。翌朝には田植えが始まり、鮮やかな緑色が、規則正しく並んで加わりました。これから、苗の成長とともに、水田は様々な彩りを見せてくれることでしょう。景色が変わる度に、秋の収穫が近づいてきます。

表紙の地図

ゼニアオイ

仙波浄水場の近くで、緑の葉にひときわ映える、紅紫色の花を見つけました。花の付き方に特徴があり、茎の先に一輪、ではなく、「咲き上がる」ように、上へ上へと茎の周りに花を付けます。又は五十センチほど。成長すると一メートル以上になるそうです。江戸時代に中国から渡ってきたといわれ、名前の「ゼニ」は、花の大きさが中国の五銖銭と同じ大きさだったこと由来するとか。漢字で書くと「銭葵」。この花の仲間には、レモンを数滴加えると色が青から赤に変化する、ハーブティーの材料となるウスベニアオイがあります。

おしゃべり倶楽部

植物あらかると

242